



## 病害虫診断における 目の付けどころ

せっかく栽培した作物が、病害虫の被害を受けてしまうことがあります。被害にあった部分は回復することはありません。しかし、適切な対策をとることで被害の拡大を防ぐことはできます。そこで、どんな害虫による被害か、どんな病気にかかったのかを明らかにするために、次のような点に注意してみましょう。

### ① 病気が出た作物は何ですか？

右の質問に対し、トマト、キャベツ、ホウレンソウ・・・というような回答では不十分です。作物にはそれぞれ品種があり、品種によっては病気の抵抗性や耐病性を備えているものもあります。病気が何か考える前に一度確認してみましょう。なお、虫に対して植物体が抵抗性を持っていることはありません。

### ② 被害に気付いた時期 及び生育状況は？

病害虫には発生しやすい天候の条

件があります。例えば晴れが続けば虫が増えるでしょうし、雨が続きればカビが発生しやすくなります。また、作物自身の生育が旺盛すぎても弱すぎても病気が出やすくなりますし、過繁茂になっていると病害虫に気付けない可能性があります。このように被害が出始めた時期やその時の生育状況は、病害虫が発生した原因を考える手掛かりになります。

その他、作物上で被害がどのように進行していったかも病害虫診断の重要なヒントになるので、注意して観察しましょう。

### ③ 病害虫の発生した位置や 広がり方は？

湿気で発病が促進される病気は水はけが悪いところからよく発生します。また、施設栽培で虫による被害が1か所に固まっていれば、その付近でビニールが破れているかもしれません。このように病害虫の出た場所や広がり方は、侵入経路や感染方法を推定するポイントになります。

### ④ 作物の全体を見る

虫による被害やカビの跡は、通常は目で見て確認できます。しかし、なかには一見ただけでは分からない病害虫もあります。

例えば芽や葉が萎れた時、その原因が根や茎にある場合があります。また、作物の内部を侵す病気や害虫もあるので、内部を割って確かめることも重要です。「おかしいな」と思った場合は、作物全体やその内部もよく観察するようにしましょう。

### ⑤ 栽培管理の記録をとる

農薬散布・かん水・追肥といった管理作業も病害虫の発生に影響を与えます。例えば水のやり過ぎによる根傷みで土壌病害を誘発する場合がありますし、汁液で伝染する病気が管理作業で被害を広げてしまう場合もあります。どのタイミングでどういう作業を行ったかを記録に残し、病害虫診断に役立てましょう。

病害虫診断のポイント	
<input type="checkbox"/>	どのような症状が出ていますか？
<input type="checkbox"/>	作目及び品種はなんですか？
<input type="checkbox"/>	いつごろから症状に気づきましたか？
<input type="checkbox"/>	症状に気付いた時の気象条件はどうでしたか？
<input type="checkbox"/>	症状に気付いた時の生育状況(草勢、生育段階など)はどうでしたか？
<input type="checkbox"/>	発生した場所はほ場のどこで、どのように広がりましたか？
<input type="checkbox"/>	植物体での被害の進行はどうですか？
<input type="checkbox"/>	どういった管理作業(農薬、肥料、かん水、誘引など)を行ってきましたか？

### ⑥ 最後に

病害虫以外の要因でも作物に被害が発生する場合があります。例えば養分欠乏・過剰による生理障害や、農薬による薬害などです。そういったものと病害虫被害とを見分けるためにも、これまで述べたような視点は重要です。日頃から作物をよく観察し、異変については記録をとるよう心掛けましょう。



▲キュウリの灰色カビ病



▲ブロッコリーヨトウムシの食害

家庭菜園に使える便利なノート!!

### 栽培記録ノート

定価 1,080円  
(本体価格1,000円+消費税80円)

- ◆野菜ごとの栽培ポイントをイラスト入りでわかりやすく解説
- ◆忘れやすい作業の記録や防除の状況を、まとめて記入できる菜園日記
- ◆産直市への出荷にもおすすめです

ご注文は最寄りのJA窓口へ